

農業がやりたくて当別町に



くどう こうたろう
工藤 浩太郎さん

少子高齢化による人口減少の影響は様々ありますが、当別町でも各業種の後継者不足は大きな課題といえます。そのような中、1人の若者が新たに当別町で農業者として昨年4月に就農し、日々作業に汗を流しています。

農業への憧れ

農業とは全く無縁のトラック運転手をしていました。当時、飲食店への配送が多く、その一軒のお店で当別町の農産物が使われていて、オーナーの紹介もあり直接、生産者の方とお話する機会がありました。その縁をきっかけに当別町で農業を始めることとなりました。農業をやってみたくてと話した時に、まずは農業とは何かを知ることから始めた方が良くとアドバイスをいただき、東裏にある農業生産法人で週に一度、農作業の手伝いをす

ることにしました。見るもの、触るもの全てが初めてでとても新鮮でした。その手伝いも半年続けましたが、つらいと思ったことは一度もありません。逆に農業への思いがより強くなりました。その後、運送会社を退職して本格的に研修を2年間行い、農業の基礎を学びました。

家族との時間を

トラック運転手をしていた頃と生活面で大きく変わったのは、家族と一緒に過ごせる時間が増えました。それが一番嬉しいですね。また、陰で支えてくれる家族にも感謝しています。将来、家族と一緒に農業をしたいという夢はありますが、まずは農業経営を1日も早く安定させていきたいと思っています。現在、アスパラと小豆を主に生産しています。自分が自

信を持って提供できる農産物を生産するためには努力するしかありません。周りに認められ、信頼される農業者を目指し、消費者の皆さんから「工藤の作る農産物はうまい」と言ってもらえるように頑張りたいと思います。



工藤さんの生産したアスパラは、今日も消費者の食卓に届けられています。

平成27年3月に策定された当別町農業10年ビジョンでは、農家戸数は、2013年の576戸から2025年には342戸まで減少することが予測されているなか、今後、工藤さんをはじめとする若い農業者の皆さんが当別町の農業を支えていきます。

(5月15日取材)